



はくさん

美守小学校
学校だよりNo. 5
令和6年8月20日

残暑お見舞い申し上げます

この夏は、パリオリンピックでの日本人選手の活躍、南海トラフ地震の危険予測や各地の地震速報、熱中症警戒アラートの知らせなど、多くの情報が次々と飛び込んできました。しかしながら、美守小の子どもたちに関わる大きな事件や事故の知らせは一件もなく、本当に良かったと安堵しております。子どもたちの安全安心な生活へのご配慮、大変ありがとうございました。

5月に全校田植えを行ったもち米の稲が、酷暑に負けず、大きく成長しました。夏休みの間も、学校田地主の さん(本郷)から水管理や害虫対策等にお心配りいただきました。本当にありがとうございました。9月上旬には、全校稲刈りを予定しています。そして10月20日(日)に、閉校記念事業として収穫したもち米を使ったお餅つき等で大勢の皆様と共に味わう収穫祭(仮)も予定しています。2学期もどうぞよろしく願いいたします。



もち米が実りました!(8月19日現在)

閉校記念事業について

大勢の皆様のご協力により、寄付金額が170万円を超えました。今後、上越市の助成金や同窓会からの助成をいただき、予定額の230万円に達する予定です。この貴重な浄財をもとに以下の事業について、実行委員一同、心を込めて精一杯実施させていただきます。詳細は次号学校だより等でもお伝えします。

<閉校記念式典・思い出を語る会>

10月19日(土) 美守小 体育館にて
・閉校記念式典 14:00~(市長挨拶、児童の思い出発表等) *参加申込は締め切りました。
・思い出を語る会 16:00~(三千香会による詩舞、卒業生のスピーチ、宴席)

*参加申込は締め切りました。

<閉校記念どんぐり祭>

10月20日(日) 9:00~15:00頃まで
・児童作品、美守小思い出の品 展示
・どんぐり収穫祭(仮)お餅つきと振る舞い等
・気球試乗体験、キッチンカー出店等

<記念校歌オルゴール制作>

・児童に贈呈。その他、一般販売(2,000円)
*購入申し込み8月31日まで(町内会長様宛)

<閉校記念碑建立>

・3月19日(水)除幕式予定、記念誌内にも記念碑写真掲載

<閉校記念誌発行>

・ご寄付いただきました皆様に贈呈。

<閉校記念品贈呈>

・校章入りデザイン手ぬぐい(式典参加者、ご寄付いただきました皆様に贈呈)

<閉校記念作品制作>

・児童手作りの陶板を記念に残す。(設置場所は検討中)

同和教育を推進します。三和区小中学校共通取組

三和中学校区の各小中学校では、令和6年度、令和7年度の2年間、同和教育研究指定地区制度（第3次）推進事業の指定を受け「三和中学校区同和教育推進協議会」を設定しました。三和区の小中学校が、児童生徒一人一人に鋭い人権感覚を育む教育を推進するために、次のように主題を設定し、共通の取組をしています。

1 三和中学校区共通研究主題

「差別や偏見を自分事として捉え、解消に向けて行動する児童生徒の育成
～認め合い、かかわり合うための同和教育実践の推進～」

2 主な取組

(1) 中学校区同和教育計画の見直し

三和中学校区として小中9年間で実践する部落問題学習、人権教育の授業計画について、「当事者意識を高め、問題解決に向けて行動する」ことに重点を置いた計画になるよう見直しをしていきます。

(2) 職員研修と授業改善

全教職員が「同和教育、人権教育に関する研修会・学習会」や先進校研究会等に積極的に参加し、教職員自らの人権感覚を磨いていきます。また、同和教育副読本「生きる」等を使った授業を他校教員にも公開し、互いに見合い、学び合うことを通して、教員一人一人の授業力向上を目指します。

(3) 保護者、地域への啓発活動

三和区小中学校で取り組んでいる研修や活動の様子を保護者、地域の皆様にご紹介していきます。また、各学校で「部落問題学習、人権教育」の授業を学習参観等で保護者、地域の皆様に公開し、授業の感想やご意見をいただき、今後の実践に活かしていきます。

(4) 児童生徒へのアンケート調査

今年度の2学期、3学期末、来年度の計3回、小学校4年生～中学校2年生を対象とした同和教育に関するアンケート調査を行います。2年間のアンケート結果から、取組の成果や課題等を明らかにし、次年度へ確実に活かしていきます。

部落問題学習、人権教育の授業づくり研修会の様子を紹介します

6月24日に三和区小中学校の教職員が美守小学校に集まり、「かかわる同和教育と部落問題学習、人権教育の授業づくりについて」をテーマとして、上越市教育委員会学校教育課の曾根原至指導主事を講師にお招きして、研修会を実施いたしました。

曾根原指導主事からは、授業を行う際の「事前学習の工夫」や「展開の工夫」など、具体的な実践例を基に分かりやすくご指導をいただきました。

また、実際の授業の中で、「当事者意識を高めた子どもの具体的な姿とは?」「当事者意識を高めるための工夫や大切にしていること」について、各学校の教職員がグループになり、互いの意見を交流する中で、授業で大切にしていけることを再確認することができました。

最後に、曾根原指導主事から「かかわる同和教育は教員自身の自らの生き方を捉え直すことが大切である」とお話しいただき、三和区全体で教員自身の変容が児童生徒の変容につながっていくことを確認しました。

